令和6年3月1日発行

～たじみの未来を創造しよう～

令和5年度 市民と議会との対話集会

報告書

多治見市議会では、令和５年10月19日から10月27日にかけて、市民の皆さまと議会が意見交換を行う「市民と議会との対話集会」を開催しました。多くの皆さまにご参加いただき、誠にありがとうございました。

このたび、報告書を作成しましたので、ご覧ください。

今回は、各常任委員会が、それぞれの所管事項についてテーマを設定し、異なる３つのテーマについてお話をさせていただきました。皆さまからいただきましたご意見等につきましては、各委員会で協議し、その内容や今後の方向性もあわせて掲載しています。

今後も皆さまからいただいたご意見を議会活動につなげていくのはもちろんのこと、できるだけ多くの皆さまにご参加いただけるようテーマや日時の設定を考えていきます。

議会へのご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

参加者合計	87人

総務常任委員会

テーマ 市役所のこれからのカタチを考える
～デジタル社会における市民にとっての利便性と課題～

10月19日㈭　本庁舎	14人	10月23日㈪　駅北庁舎	3人

経済建設常任委員会

テーマ 公共交通について

10月19日㈭　バロー文化ホール	9人	10月27日㈮　駅北庁舎	15人

厚生環境教育常任委員会

テーマ すべての子どもに学びの居場所を
～これからの不登校支援のあり方～

10月23日㈪　駅北庁舎	29人	10月27日㈮　産業文化センター	17人

発行：多治見市議会　編集：広報広聴研究会
多治見市日ノ出町2丁目15番地〔議会事務局〕　TEL0572-22-9899　FAX0572-25-6437

総務常任委員会　市役所のこれからのカタチを考える
～デジタル社会における市民にとっての利便性と課題～

参加：17人

課　題

人口減少社会対策の一つとして、国がデジタル田園都市国家構想を推し進める中、本市のデジタル化の取組においては、出遅れ感があることは否めない。今後、第８次総合計画、新本庁舎の建設を控える中で本市の現状、他市の先進事例を調査し、本市の抱える課題を整理する。

委員会での検討・協議の内容等

先進事例の調査として、『遠隔相談窓口サービス』の実証実験を実施した兵庫県三田市と住民異動手続きの効率化・簡略化に取り組む兵庫県三木市の視察をした。両市共に技術的な点について問題はないが、市民に浸透させ利用を促すことや開発したシステムを他業務に応用していく上で課題を残した。電子申請やキャッシュレス決済など一つ一つの技術ではなく、全体の業務フローを視野に入れながらシステムを構築していくことが必要であると考える。また、対話集会により、デジタルディバイド（情報格差）解消のための取組が急務であるとも感じた。

今後の委員会の動き

DX 推進の取組は、市民サービスの向上と業務改善を目指し、市民にも職員にもメリットのあるものでなければいけない。国の政策である自治体情報システムの標準化の準備が進められる中、議会には、他市の先進事例の調査、研究による本市への提言等が求められる。また、本市の方向性を広く市民に発信するとともに、市民の多様な意見を集約し、フィードバックする役目を担うことが必要と考える。

おもな意見

・スマホの使用方法がわからない高齢者はどうすればいいのか。
・高齢者に対するパソコン、スマホ等の情報発信をしているか。受け手の現状調査をすべきである。
・基本的なこととして、誰もがパソコンやスマホを使いこなせる環境づくりが必要ではないか。
・デジタルディバイド対応が必要ではないか。
・行政事務、行政サービスの ICT 化が進んでないのではないか。（死亡届や住民異動届時にあちこち回らなければならないし、同じことを何度も書かなければならない。）
・高齢化が進む中、行政手続きを自宅からもできるようにすることや、福祉の相談業務を地区事務所で行えるよう対応すべきではないか。
・デジタル化は必須。敬遠しがちな高齢者ほど必要と考える。家庭で Wi-Fi 環境が整備できないことを問題とする人がいるが、やる気の問題。とはいえ、お金をかけることを好まない人はいる。
・デジタル化は、早急に国が基盤をつくり、各市が乗れば横もつながる。国が動いたときに多治見市が遅れることなく対応できる準備をしておいてほしい。
・市内の公共施設の Wi-Fi 環境を整えてほしい。

経済建設常任委員会　公共交通について

参加：24人

課　題

多治見市は「自動車に頼らなくても移動できる公共交通づくり」を掲げ、幅広い関係者が協力し、知恵を出し合って地域公共交通について検討する多治見市地域公共交通会議を設置している。今後、第８次総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画と整合を図るとともに、地域にふさわしい公共交通とは何か、現状と課題について市民全体のニーズを捉え、慎重かつ迅速に進める必要がある。

委員会での検討・協議の内容等

中心市街地および地域拠点に都市機能を集約するまちづくりを目指す多治見市にとって、それらの拠点間をつなぐ公共交通は大変重要であると考える。

本委員会では、路線バス、コミュニティバス、あいのりタクシー等の地域公共交通について多治見市が現状を把握し、課題に取り組んでいるか、地域の要望に沿った運行体系により成果が出ているかなど検証し、協議を行っている。

今後の委員会の動き

『公共交通について』をテーマに開催した市民と議会との対話集会には、多くの方にご参加いただいた。これは、多くの方が公共交通の今後に対し、危機感を募らせていることの表れと感じている。

同じ多治見市内でも、地域によって公共交通のニーズに違いがあるため、その地域の現状、課題をしっかりと捉え、それぞれの地域で求められる公共交通の在り方を行政に訴えていくことが必要である。また、地域公共交通に対する今後の支援の在り方についても、交通事業者の意見を伺いながら、行政とともに議論していきたい。

さらに新しい交通手段として、ライドシェア、自動運転、次世代モビリティサービス等の調査・研究を行いながら、多治見市に合ったサービスを議論し、迅速かつ、慎重に進めていくよう提言したい。

おもな意見

・公共交通に費やす予算額が少ないのではないか。
・公共交通について調査分析し、予算も増やし市民の利便性を図ってほしい。
・高齢化でバス停まで歩いて行くのが負担になっている。
・土日の最終バスの時間が早い。
・美坂地域は、路線バスは場所的に大変本数も多く恵まれているが、バス停までの距離やバス停の位置等に問題があり、高齢者が乗りにくくなっている。
・あいのりタクシーや AI よぶくるバスのような、ドア・ツー・ドアのサービスが必要になってくるのではないか。
・運転免許証を返納した方が、買い物難民になっている。
・ライドシェアを推進してはどうか。
・バスが徐々に減便していること、タクシーの予約が取れないことなどの現状を踏まえ、公共交通を充実させてもらいたい。
・多治見まつりなどイベントの際は、市内巡回バスを運行すると観光につながるのではないか。

厚生環境教育常任委員会

すべての子どもの学びの居場所を
～これからの不登校支援のあり方～

参加：46人

課　題

全国的にも、また多治見市でも不登校児童生徒の人数が年々増えてきている。国もその対策に本格的に乗り出し、「COCOLO プラン」を作成した。本市においてもこのプランの実行を含め、子どもたちが安心して過ごせる「学びの居場所」をできるだけ多くつくることが必要と考えるが、そのことも含め、これからの不登校支援の在り方を考えたい。

委員会での検討・協議の内容等

(1) 学びの多様化学校等の視察

不登校の現状や施策を学ぶため、多治見市立北陵中学校の教育支援室、「学びの多様化学校」である学校法人東京シューレ学園東京シューレ葛飾中学校と大田区立御園中学校分教室みらい学園中等部を視察した。笑顔で真剣に学んでいる子どもたちと懸命に関わる大人の姿を見て、不登校で苦しむ子どもたちへの最善の支援が大人としての責任であると肌で感じた。

(2) 市民と議会との対話集会の開催

上記のテーマについて、グループごとに、ワークショップ形式で意見交換を行い、「行政」「学校」「家庭」「地域」における課題を挙げ、その課題解決に向けた具体的提言をまとめ、発表していただいた。この提言を議会として真剣に受け止める必要がある。

今後の委員会の動き

子どもたちの学びの居場所は、フリースクールや「学びの多様化学校」等、施設の設置だけで確保できるものではない。経済的、精神的な支援とともに地域の大人の理解が必要である。

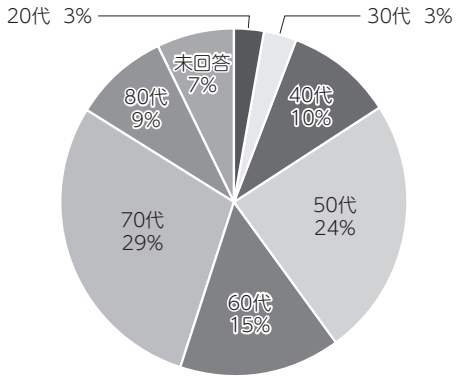
今後議会活動を通し、「学びの居場所」の確保に向け、さまざまな要望を行政に対し働きかけていきたい。さらに、学校に行かなくても、温かい心で接してもらえる居場所を地域につくることなど、地域住民の関わり方を、児童館や子ども食堂などとも連携し、議会も参加して検討していくべきと考える。

おもな意見

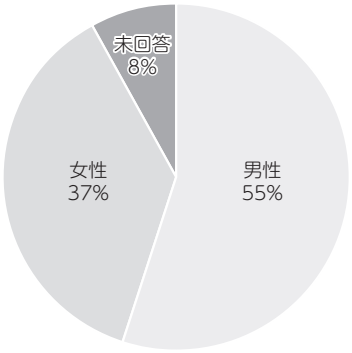
- 親が安心できるような、親も子どもも気軽に相談できる場所が必要である。
- 保護者や児童生徒を責める空気があるのではないか、責めないような環境が学校にも地域にも必要である。
- 学びの居場所は学校だけではないので、与えられた場所以外でも、子どもが選択できるような環境を整えたい。
- 市民病院に小児精神科医を配置していただけないか。
- 教員をはじめ、キキョウスタッフの数を増やしてほしい。
- 「さわらび学級」の存在は重要であるが、通うのが大変な場所にあるため、どの子も通いやすい場所にしてほしい。
- 保護者に対して、もっと情報を共有してほしい。

参加者アンケート集計結果

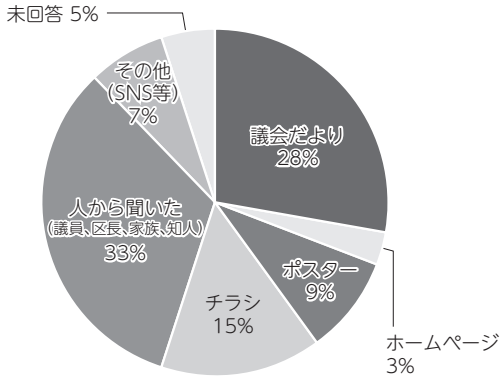
年　齢



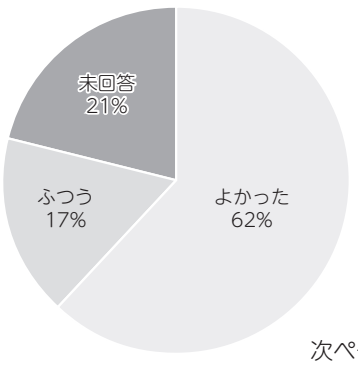
性　別



今回の「対話集会」の開催を何で知りましたか?(複数回答あり)



「対話集会」のテーマ・内容はどうでしたか?



次ページにつづく

今回の対話集会の感想（○よかった・■よくなかった）

○高齢者に対する情報社会の在り方等、諸氏の話に興味が持てた。（総務）

○公共交通はみんなの問題であり、よいテーマだった。……（経済建設）

○熱意を持った方が集まり、いろいろな体験談、意見を聞くことができて良かった。……（厚生環境教育）

○ワークショップ形式はとても良かった。３色のツール（付箋）も問題が明確化できて良かった。……（厚生環境教育）

■多治見市の考えていることが伝わっていないことがある。デジタル社会の基礎を作るには時間がかかると思う。……（総務）

■多治見市は道路の整備が進んでいないように感じる。……（経済建設）

■対話時間が短い。……（経済建設・厚生環境教育）

■いろいろな意見が出たが、意見を聞いて終わりではなく、良い方向に反映してほしい。……（厚生環境教育）

対話集会で取り上げてほしいテーマ

・人口減少対策
・交通に関しての課題。特に道路行政
・議会の広報の在り方
・地域の活性化
・文教施策・図書館の在り方
・空家問題
・町内会（自治会）と行政の兼ね合い
・ライドシェアについて
・8050 問題について
・子どもとの対話
・発達障がい児への理解について
・環境問題（ごみの出し方）

※詳細内容については、多治見市議会ホームページに後日掲載いたします。
http：//www.city.tajimi.lg.jp/gyose/gikai/taiwa.html

本庁舎をどうつくるのか？ 市民の声を聴く会を開催します

本庁舎建設に関する特別委員会

【テーマ】

①行政・窓口サービスについて　②交流・にぎわいについて　③駐車場について　④予算・規模について

令和５年12月に本庁舎建替えの基本的な方針と考え方を示した「多治見市役所新庁舎建設基本構想」が決定されました。今後は、基本構想に基づいて新庁舎建設事業が進められることになります。

多治見市議会として市民の皆さまのご意見を広くお聴きするため、下記の日程で「本庁舎をどうつくるのか？市民の声を聴く会」を開催しますので、ぜひご参加ください。

	開催地域	開催日時	会　場
1	多治見中学校区	４月８日(月)　14:00～15:30	本庁舎　２階大会議室
2	笠原中学校区	４月８日(月)　19:00～20:30	笠原交流センター　ホール
3	陶都中学校区	４月11日(木)　14:00～15:30	バロー文化ホール　大会議室
4	北陵中学校区	４月11日(木)　19:00～20:30	旭ケ丘公民館　ホール
5	平和中学校区	４月16日(火)　14:00～15:30	総合福祉センター　大会議室
6	南ケ丘中学校区	４月22日(月)　19:00～20:30	感謝と挑戦の TYK 体育館　会議室
7	小泉中学校区	４月30日(火)　14:00～15:30	小泉公民館　大ホール
8	南姫中学校区	４月30日(火)　19:00～20:30	南姫公民館　大ホール

※中学校区ごとの開催になりますが、お住まいの中学校区に限らず、ご都合のよい日時・会場でご参加ください。
※申し込みは不要です。

この対話集会報告書は1部辺り 3.47 円(税込み)で、40,300 部作成しています。
VEGETABLE OIL INK　リサイクル適性Ⓐ　たじみ議会だよりは環境に配慮した再生紙と植物油インキを使用しています。
この印刷物は、Aランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。

この印刷物を破棄する時は、燃やさないで、資源回収等に出しましょう。